

上田市教育委員会 10月定例会会議録

1 日 時

平成23年10月18日(火)

午後2時34分から午後4時07分まで

2 場 所

上田市教育委員会(やぐら下庁舎) 2階会議室

3 出席者

委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	金子 泰子
委 員	城下 敦子
委 員	小市 正輝
教 育 長	小山 壽一

説 明 員

廣川教育参事、小野塚教育総務課長、中村学校教育課長、浅野生涯学習課長、深町人権同和教育係長、土屋文化振興課長、佐藤体育課長、下村丸子地域教育事務所長、藤沢真田地域教育事務所長、掛川武石地域教育事務所長、横尾第二学校給食センター所長、足立中央公民館長、大滝上田図書館長、山崎西部公民館長

・ あいさつ

<協議事項>

(1) 平成23年度教育委員会重点目標の中間報告について

資料1により小野塚教育総務課長説明

西田委員長

この報告は、HPで公開するのか。

小野塚教育総務課長

今年の市長部局の方針は未定だが、例年、一覧表のシートを公開する。

金子委員

P D C AのDは、中間報告までの実績がきちんと出ているが、Cはどこにあるのか。中間までにこうしたが、このような課題が残っているから期末までにこうしたいというチェックがない。

小野塚教育総務課長

この表だけではチェックの内容は分からない。具体的な取組方法が年度当初に決めた目標であり、それに対する達成度が記されている。教育委員会では、目標管理とは別に教育行政事務の点検評価も行っているが、P D C Aのサイクルに関しては常々指摘されているので見直したい。通常、期末報告は年度終了後の4月に行って新年度の目標を立てているが、今後、教育委員会では年度内に期末報告を行い、教育委員会に諮りながら4月に新しい目標を立てようと思うので、そこでチェックが入り次のアクションに繋げるつもりである。

西田委員長

チェックは誰が担うのか。

小野塚教育総務課長

今考えているのは自己点検である。教育委員会の場で意見をいただきたい。懇話会の開催は翌年度になるので、改めて点検と評価をお願いしたいと思う。

金子委員

せっかく中間報告をするのであれば少しチェックを入れておかないと、期末報告の段階になってのチェックでは、また次にずれ込んでいくのではないかと心配である。分かっている部分だけでもチェックを入れておいた方がいいのではないか。ここまでではできた、これはできない、できない理由はこうだと中間報告にチェックを入れるのは不可能か。

小野塚教育総務課長

全庁的には、数字を用いて達成状況や進捗状況を表せとの指示があるので、こんな形になっている。この場で教育委員の意見をいただきチェックを行いたい。

城下委員

教育行政評価懇話会の内容が年度当初の欄に記載されているのは違和感がある。懇話会での評価は、中間報告に入れた方がいいのではないか。

また、中間報告である程度チェックされないと期末でのチェックが次年度に生かされないのではないか。中間までにできないことに対して後半に力を入れないと、翌年も堂々巡りとなるため、できている範囲とできていない範囲をきちんと見定めることが必要である。

例えば、重点目標 1 の 「学校評価を各学校のホームページ等で知らせました」とあるが、実際はページが開けない学校がある。中間報告までの実績のチェックが大事だと思う。

中村学校教育課長

昨年度末には、まだ全ての学校がホームページに載らなかったが、4月以降に全て載ったと聞いている。学校によって学校評価のページの開き方が様々なので、今年度は精査する必要がある。

今年度は各学校で目標・評価項目のシートを載せてあると思うが、学校によってはホームページの更新が遅いところもあるのでチェックしたい。

小山教育長

6月の時点では、全部の学校が表紙から学校評価に入ることができた。同時に今年度の評価シートも掲載されていた。現在、市町村教委内のすべての学校の学校評価が掲載されているのは上田市だけなので、上田市の特色として維持していく必要がある。今、各学校で中間評価をしているので、評価が終わり次第掲載されると思う。

小野塚教育総務課長

取組項目の下に教育行政評価の項を入れたのは、教育委員会では、独自に懇話会で評価・点検を行って配慮しているという意味も含めたからである。取組項目は個々に決めているが、教育行政評価と連結している部分があり、対応できるものもあるので、教育行政評価を反映させた取り組みを行っている。

チェックについては、中間報告そのものがチェックになると考えており、達成できなかった部分について年度後半に向けて検討していくことがPDCAになると思う。

小市委員

専科の教員 3 名を配置しました、児童アンケートを 2 回実施しましたとあるが、どうい

う効果があったのか。素晴らしいことであり、他市町村が踏み込めないところまで踏み込んだので、子どもたちの意識の違い等の成果を、具体的な数値で出すことは難しいと思うが、あと1～2行の記述があってもいいのではないか。

「心の教室相談員」36校、「特別支援教育支援員」35校、「巡回学習支援員」2名、カウンセリングマインド研修会4回の320名、これも数字的に大変素晴らしいと思う。各学校に「心の教室相談員」の配当時間を増やしてほしいとの希望がある。それに応えることで、上田市の教育は手厚くやっていることを伝えていく必要がある。

中村学校教育課長

数学の専科の先生3名の配置については、アンケート実施を2回考えており、1回目は専科導入の前に、2回目は導入後に行い、効果を検証したい。実績として成果が現れるのは、年明けだと思う。今年は3名配置してアンケートを2回取って比較することが目標で、中間報告では実施しただけの報告である。期末報告には成果が報告できると思う。

支援員の配置については、上田市は他市より充実していると思うが、実績はできるだけ数値で表すこととされているので、文章での表現はむずかしい。

小市委員

相談の件数は書くことができないか。各学校には相談したデータが残されているので、4月当初と比べることができる。

中村学校教育課長

相談員については、保健室登校（クラスに入れないが学校へは登校している）の子どものケースや半日しかいない子どものケースがあり、数字は分かるが相談件数で良いのかむずかしい。

小山教育長

評価の仕方はむずかしい。数学専科を配置した学校の教員が集まった研修等で成果の中間報告ができるものと、後期のアンケートをやってみないと成果のチェックができないものがあり、評価の尺度をもう一度考える必要がある。カウンセリング研修は終わっているので、来年度に向けてどうするか考えられる。研修の結果を学校で調査することもできる。

教育行政評価懇話会の評価は平成22年度のものなので、目標管理とは当然ずれが生じる。半年遅れで評価しているものを23年度の事業の中間報告にどう入れるかは、ずれを意識しないとむずかしい。

金子委員

例えば派遣日数2人で176日とか、参加者が381人だとか、アンケートを2回実施とあっても、これが良いのか悪いのか分からない。データとして数値を残すことは大事だ

と思うが、報告としてここに出すにはデータの解析結果を成果や課題として載せていくべきではないか。アンケートならば、後期は何月に行い結果は何月の予定とあれば部外者が見ても2回あることが分かる。カウンセリングマインド研修会ならば、前年度はこうだったが今年はここまでいったので引き続き来年も続けて行いたいなど、解釈した結果を報告として載せるのはどうか。

小野塚教育総務課長

中間報告は、例えば「学ぶ意欲を育む授業」では、中学校3校に専科教員を配置します、アンケートを2回実施しますという取組を挙げており、この取組がどうなっているかを記載している。その成果やこれからどうするかを書くようなしくみにはなっていないが、この表で対応するとすれば、我々は裏ではこれから下半期でやらなければならないことを認識する。

金子委員

目標があって手だてがあって、こういう状況で、この後どうするという流れがあるべきであり、裏にあるものを表に出さないと外から見た者は分からない。どういう課題があり、どういう成果があるかを示し、更に質問があったなら、手元にある数値を出して実証的に示していくものだと思う。

小山教育長

評価尺度の問題であって、例えば算数・数学の小中連携事業については、中間報告では評価を出すことはできない。何回小学校へ出向いて授業をしているかは学校によって違うから、トータルで何回小学校へ行っているか。あるいは、小学校と中学校の教員の間で、どう教えるか、全体でどのくらいやるのかを検討したり、小中連携での研究がどのくらい行われているかの数値は中間報告に出せる。そもそも、この予算が取れたのは、昨年、二中で「算数が分かるようになった」「おもしろい」という後期の生徒アンケートが膨れ上がったからである。次のアンケート結果は二中と同じ結果が出ないこともあり得るが、研修を積み重ねて小中で算数・数学の連携をやったり、生徒理解を深めたりという意味でも成果があるのではないかと仮説を立てて進めてほしい。

中間と最終では評価尺度が変わってもいいと思う。中間ではどういう形で目標が進行しているか、進行している状況の評価する。だから、進行状況が分かるような数値が出る。

例えば、特別支援教育支援員にしても、何のために配置するのか。市としての考え方があるが学校ではどういう利用をしているか。相談件数で評価できる場合もあるだろうが、中間報告ではどういう尺度で評価していったらいいのかあらかじめ考えておく必要がある。単に相談件数を上げればいいというものではないが、実質的に相談員が相談に乗っている回数を前年度と比較するのも一つの方法である。どういう評価尺度を持ってくるのか、もう一度すべての項目について点検し直したほうがいい。

西田委員長

8月の報告は、教育行政評価懇話会の評価が主体だった。今回は目標管理の中間報告だから自己点検だと思うが、中間にチェックを入れるというのは、最終的な年度目標に対してどう到達するかの反省を含めた確認である。表現の方法はともかく、評価と課題を入れられると思うがどうか。要は、22年度と23年度の連続性をどこに求めて、そこに評価とチェックをどう生かしていくかが大切である。

城下委員

民間企業の品質向上のISOなどでも目標管理の結果を出すときは数字で出せという。しかし、この報告は、誰に向けて行っているかといえば市民に向かってである。同じ目標を達成しようとしている仲間の中であれば数字だけでも分かるが、一般市民に分かってもらうためには、数字だけでなくアンケートの内容や結果等を入れた方がいい。

例えば、「先進校視察」とはどこへ行ったのか。そういう単純なところから分からない。市民に活動の結果報告をするには、数字を並べるよりも説明をすることが必要だと思う。

小市委員

小中連携は中1ギャップの解消のために大事な事業であると教育関係者は認識したが、実際はストップしている。しかし、上田市は二中で行った事業を評価し、子どもたちの「生活も変わる」「学習態度も変わる」「学び方が変わる」「学力の向上にも結び付くだろう」という判断のもとに、今年度更に拡大して3校にした。

中間評価を数値で出すことは、非常に難しいことはわかる。しかし、中間でも、子どもたちの意識の変化は明らかに出てくるし、小中学校の教員の受け止め方も違う。「中学は怖いと思っていたが実は楽しいところだ」「自分は夢を持ちいろんなことがいっぱいできる」そういう部分を書けば伝わるのではないか。

小山教育長

今年度は難しい。施策にはどういうねらいがあり、どういう効果が上がったのか、どういう評価尺度で測るかということを予め提示してやらないとできない。さらに、中間ではどういう評価をし、期末でどういう評価をするのかを考えておかなければならない。数値をもって中間評価ができるということは、当初から評価方法を用意してある。数値で見ると「やった回数」「上がった成果」の2本立てでいつも用意する。しかも、あまり現場に負担を掛けずに簡単に調査できるように、当初に目標を立てる段階で計画しておく。

来年度は、そういう計画でやっていく。また、それ以前に、ねらいをはっきりしないと予算を取れないので、こうした評価を計画することが必要である。

西田委員長

いろいろな意見が出されたが、今後の参考にしてもらいたい。市全体の目標管理制度以外に、教育委員会として平行してできることがあれば実行してもらいたい。

全委員 了承

<報告事項>

(1) 平成23年度4大学リレー講座の開催について

資料2により浅野生涯学習課長説明

西田委員長

信州大学の植物工場とは、繊維学部のキャンパスの中にあるのか。

浅野生涯学習課長

下見はしていないが、キャンパスに近いと思われる。

城下委員

高校生にもチラシを配るといふが、どういう計画か。

浅野生涯学習課長

市内の5つの高校にチラシを送付するつもりである。

西田委員長

平成22年は99名参加ということだが、参加者がふえるように努力してほしい。また、大震災と原発のことでは、日本中にいろんなシンポジウムや学者・実務家の講座が開催されているようだが、いかに正確に正しいことを理解したいかという大勢の方の熱意の現れだと思う。盛会を期待する。

全委員 了承

(2) 第6回人権を考える市民のつどいの報告について

資料3により深町人権同和教育係長説明

金子委員

今年は参加者が非常に多いと思った。三四六さんに会いたい人が多かった。講演者に誰を呼ぶかによって集客力が随分違うと感じたし、講演も良い話だった。

全委員 了承

(3) 第25回上田古戦場ハーフマラソン結果の報告について

資料4により佐藤体育課長説明

城下委員

月刊ランナーズのHPを覗いてみたら、去年を遥かに上回る件数で「すごく良かった」という感想がたくさん載っていた。評価点は、ほとんどが85点以上の評価だった。古戦場マラソンを褒めてもらい嬉しくなった。

西田委員長

人数がふえた最大の原因は何か。

佐藤体育課長

雑誌ランナーズの「ランネット」から申込みができるようにした。ランネットが一番メジャーであり、全国のランナーがどこの大会に出ようかと見ているようで、その効果が大きかったと思う。また、今回の評価が高いと、来年は益々参加者がふえるのではないかと期待している。

西田委員長

小学生等で事故や病気などはなかったか。

佐藤体育課長

特になかった。途中救急要請をした方が数人いたが、大事に至ることはなかった。

全委員 了承

(4) 行事共催等申請状況について

資料5-1により中村学校教育課長説明

西田委員長

「須坂青年自然の家」の上田からの参加者はどのくらいか。

中村学校教育課長

まだ申請の段階であり、参加者が何人かつかんでいない。今後、実績報告が上がる。

全委員 了承

資料 5 - 2 により浅野生涯学習課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

資料 5 - 3 により土屋文化振興課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

資料 5 - 4 により佐藤体育課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

<その他>

資料 “ コミュニティ・スクール ” により中村学校教育課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

資料 “ 藩主松平氏の遺品、山本鼎記念館展覧会の案内 ” により土屋文化振興課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

資料 “ 旅ゆけば ” により大滝上田図書館長説明

西田委員長

事前の申込みは必要ないが、先着 50 名ということは 50 名を越えたら入れないのか。

大滝上田図書館長

1Fの大会議室で行うので、いっぱいにならないと思う。

全委員 了承

資料“真田中央公民館だより”により藤沢真田地域教育事務所長説明

質疑意見なし

全委員 了承

資料“公民館だより”により足立中央公民館長説明

質疑意見なし

全委員 了承

金子委員

最近の定例会は協議事項が少なく、事後報告が多いが、「終わりました」という報告だけだと検討するチャンスがないので、事前の報告や今の動き、今後の予定などの情報も入れていただきたい。

例えば、全国学力調査の問題があるが、市の対応の仕方など。今回は、3.11のことで中止になって全国学力調査が遅れているが、市ではこうしようとしているとか、事前に教えていただくと私たち委員も意見を述べたり質問したりしやすい。

西田委員長

過ぎたできごとの報告や、実績を教えていただくこともあるが、事前に意見を挟める余地があれば、教育委員の役割も果たせると思うのでよろしく願いしたい。

金子委員

全国学力調査はどう行われたか。

中村学校教育課長

今年度の学力調査について、3.11の大震災で先送りという話もあったが、結局、国として採点集計テストを行わないということになった。例年は4月に行われるが、今年度は問題集が9月末にきた。各学校で独自に実施したり、授業の中で使うなど有効に使うよ

うにお願いした。

金子委員

全ての学校に配ったのか。

中村学校教育課長

文科省がつくった良い問題ということであり、全ての学校へ送った。

西田委員長

閉会